

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員			
◎岡村典子、川島良子、谷内田潤子、山岸美奈子、池田よし江			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 前期	【授業時間】 30時間
	【担当教員】 【氏名】 ◎岡村 典子 川島 良子 谷内田 潤子 山岸 美奈子 池田 よし江 金井 系未	【研究室】 216 206 共同研究室 1 共同研究室 5 共同研究室 1 共同研究室 5
実務経験のある教員が担当します。		
【本学の科目区分】 専門科目		
【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】 看護師課程		
【D P 1】 ○ 【D P 2】 ◎ 【D P 3】 【D P 4】 【D P 5】 【D P 6】 【D P 7】		

到達目標	看護技術の目的と科学的根拠を理解し、安全・安楽を踏まえた診療に伴う援助技術の知識・技術を習得する。	
授業概要	学修する各看護技術の目的と意義、そして実施するための知識・技術を習得する。この科目では、食事・排泄を整える援助、呼吸・循環・体温を整える援助、検査時の援助、与薬時の援助に関する技術について、必要な知識を学ぶとともに演習を通して技術の習得を目指す。さらに、事例に対応した援助を展開することにより、基礎看護技術演習 I、II、IIIの学修を統合する。 ※A・Bグループに分かれて少人数で演習を行う。詳細のスケジュール（担当教員含む）は後日配布する。	
授業計画	1	授業内容 授業形態：講義・演習 学習課題：無菌操作法 学習内容：無菌操作法、滅菌と消毒法 備考：
	2-3	授業内容 授業形態：講義・演習 学習課題：食事、排泄 学習内容：経管栄養法の方法と管理 グリセリン浣腸の方法、導尿、留置カテーテルの管理 備考：
	4	授業内容 授業形態：講義 学習課題：呼吸・循環・体温を整える基礎知識 学習内容：呼吸・循環・体温に関する機能と症状 呼吸を楽にするための援助、循環の保持と促進の援助、体温維持の援助 備考：
	5-6	授業内容 授業形態：演習 学習課題：呼吸・循環・体温を整える看護技術 学習内容：酸素吸入（O2ボンベ）、ネブライザー 気管内・口腔内吸引法 温罨法・冷罨法 備考：
	7	授業内容 授業形態：講義 学習課題：検査と看護の基礎知識 学習内容：臨床検査の目的、臨床検査の種類 検査における看護の役割 検査結果を看護に反映 備考：
	8-9	授業内容

	<p>授業形態：演習 学習課題：検査と看護—静脈血採血の技術— 学習内容：注射器・針の取り扱い 採血部位と方法、血液の処理の仕方 医療廃棄物の処理 (注射法については臨床との連携を図りながら学習する) 備考：ゲストスピーカー</p> <p>10 授業内容 授業形態：講義 学習課題：与薬と看護の基礎知識 学習内容：与薬の種類と特徴、薬害、薬品管理、各種与薬法の原則と留意事項 多職種との連携 与薬における看護の役割、与薬時のアセスメント 備考： 授業内容 授業形態：演習 学習課題：与薬と看護—経口与薬、直腸与薬、筋肉内注射— 学習内容：経口与薬法、直腸与薬法 筋肉内注射法 (注射法については臨床との連携を図りながら学習する) 備考：ゲストスピーカー</p> <p>11-13 授業内容 授業形態：演習 学習課題：事例に応じた看護の展開 学習内容：事例に対応した援助について、看護過程の展開を通して考え実施する 備考：</p> <p>14-15 授業内容 授業形態：演習 学習課題：事例に応じた看護の展開 学習内容：事例に対応した援助について、看護過程の展開を通して考え実施する 備考：</p>
事前・事後学習	事前学習：「基礎看護技術演習Ⅰ」「基礎看護技術演習Ⅱ」の学修を振り返る。 事後学習：診療に伴う技術については、安全に実践できるよう知識・技術を振り返る。その際、教員の指導を積極的に受ける。
評価方法、評価基準	到達目標に対し、下記の3点にて評価する。 1. 期末試験70%：期末試験として、目標達成度を最終的に評価する。 2. 課題20%：課題内容は、学習の進行に応じて講義時に説明する。 3. 学習態度10%：演習、グループワークに主体的・能動的に取り組んでいるかについて評価する。
必携図書	自作テキスト：ファイルにて配布、ハンドアウト資料使用 有田清子他：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ、医学書院。（前年度購入済み教科書）
参考図書・資料等	阿曾洋子他：基礎看護技術、医学書院
受講、課題、資料配布等のルール	・演習は時間の中で順序立てで進めていくため、20分を超える遅刻や途中退出は欠席とみなし、遅刻3回で1時限分の欠席とする。出席日数が規定に満たない学生は試験を受けることはできない。また、服装・髪型・爪などの身だしなみ、言葉遣いといった演習に取り組む姿勢にも留意すること。なお、学習課題の順番は変更する場合がある。 ・看護技術の習得を目指すため、課題へ意欲的に取り組むとともに、時間外の自己学習も必要となる。
教員からのメッセージ	看護援助は、対象の立場を考え、対象に合わせて方法を選択し、実践する力が必要となります。そのためには、看護技術に関する知識の定着とともに反復練習が欠かせません。自習時間を十分に活用した練習を期待しています。
オフィスアワー	